

令和4年度第2回県北広域振興圏地域運営委員会議 会議録

日時：令和4年12月2日（金）13:30～15:30

場所：二戸地区合同庁舎4階4-D会議室・入札室及び
久慈地区合同庁舎6階大会議室

1 開会

【下山理事】

それでは定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第2回県北広域振興圏地域運営委員会議を始めさせていただきます。私は、司会進行を務めます、理事兼副局長の下山と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それではまず始めに、県北広域振興局の坊良局長から、御挨拶を申し上げます。

2 挨拶

【坊良局長】

本日は御多忙の中御参加いただきましてありがとうございます。新型コロナウイルス感染症拡大の対策といたしまして、今回も会場を久慈地区と二戸地区の2つに分けて開催しておりますので、御了承いただきますようお願いいたします。

7月に開催しました第1回の会議におきましては、いわて県民計画（2019～2028）のアクションプランであります、次期地域振興プランの策定に向けて、委員の皆様方から、多くの御意見を頂戴したところでございます。人口減少、担い手の確保、所得向上に向けた産業振興、再生可能エネルギーなど、様々な観点から御意見を頂戴いたしました。

これと並行いたしまして、管内の市長村長などからも御意見や御提言をいただいていたところでございます。いただいた御意見の内容は、皆様の認識と同様のものが多くあったところでございます。こうしたことを踏まえまして、次期県北圏域の地域振興プランの素案を策定したところであり、パブリックコメントを11月15日から実施しているところでございます。

本日はこの素案についての意見・提言、そして、並行して検討をすすめております、来年度、令和5年度でありますけれども、この県北広域振興局の取組の方向についても、御意見や御提言など頂戴したいと考えております。

地域振興プランの推進、そしてこれに基づく毎年度の事業実施に当たり、より成果をあげるためには、市町村や関係団体、事業者の皆様などとの連携した取組が非常に重要と考えております。限られた時間ではございますが、県北地域の活性化につなげていけるよう、委員

の皆様から忌憚のない御意見を頂戴できればと思います。本日はどうぞよろしく願いいたします。

3 議事

【下山理事】

次に、本日御出席の委員、それから県側の出席者を御紹介するところですが、今年度2回目の会議でございますので、お手元の名簿をもって御紹介に代えさせていただきますので御了承願います。なお、本日は御都合によりまして、川代利幸委員、田家亘委員、千葉暢威委員、堤内裕子委員、古舘拓委員の5名の皆様が御欠席でございます。

議事に入る前に、配付資料の確認をさせていただきます。お手元に次第、出席者名簿、座席表、資料5を配布してございます。それから、次第の下の枠囲みの中でございます事前送付資料に記載している資料6種につきましては、事前に送付し、本日御持参いただいております。もし、足りない資料がございましたら、事務局までお知らせ願います。なお、本日は前回に引き続き会場を久慈と二戸両会場をオンラインでつないでおります。ということで、御発言の際は、なるべくゆっくり、はっきりと、意識して御発言いただきますようお願い申し上げます。

それでは次第の3、議題に入らせていただきます。

県北広域振興局地域運営委員設置要綱第4の規定によりまして、運営委員会議は局長が主宰することとしておりますので、以降の進行は、坊良局長が行います。

【坊良局長】

それでは、次第の3議事に入ります。議事の「いわて県民計画第2期地域振興プラン（素案）及び令和5年度における県北広域振興局の施策の方向性について」説明します。

初めに事務局から、資料1から4までの説明をいたします。その後、委員の皆様から順番にお一人3分程度で、地域振興プラン素案や振興局の来年度の方向性に対する御意見・御要望、皆様が日頃活動する中で感じている課題等について、お話しいただければと思います。

また、皆様に御発言いただく順番でありますけれども、まず二戸会場にお集まりの皆様方から名簿の順に御発言いただき、その後久慈会場にお集まりの委員の皆様から御発言いただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、事務局から資料1から4までの説明をお願いします。

【高橋企画推進課長】

〈資料1から4までの説明〉

【坊良局長】

はい、説明をいただきました。もう一度若干私の方からも補足いたします。資料3-1の1枚ものの資料をご覧いただきたいのですが、「地域振興プラン策定の方向」というものであります。いわゆる、今回の地域振興プランの見直しに当たっての考え方と具体的な取組のキーワードを整理したものであります。

まず、一番のこの地域の課題でありますけれども、県の課題でもありますが、一つは人口減少対策、もう一つは所得向上ということでございます。それらに対する取組の柱を、この赤字の、1 若者・女性が活躍する地域づくり、2 所得向上を目指した産業振興、3 北いわてのポテンシャルを生かした未来づくり、ということで、この3つの柱で取り組んでまいります。そして、その下に(1)から(3)まで書いてありますけれども、これらの具体的な取組を、ただいま担当の方から説明をしたところでございます。こういったような視点で、プランでは朱書きのところは先ほど説明をいたしましたが見直した内容、重点化したものなどをこの地域振興プランの方に具体的に記載をしたところでございます。そういった方向で、今回素案として整理をして、現在パブリックコメントにかけているということでございます。こういったようなことに、皆様の方から様々な御意見をこれからいただければと思います。

地域振興プラン（素案）、そして来年度の振興局の取組方針ということで、皆様の方から、お一人3分程度でありますけれども、御発言をお願いします。不足補足等したいということであれば、委員の皆様御発言が一巡した後にお時間をとっておりますので、その際に御発言いただければと思います。

そして、それぞれ発言していただいた後に、振興局、各担当の方から、御説明・コメントするという形で進めてまいりますので、よろしくをお願いします。

それでは、初めに、二戸会場に集まっていた委員の皆様から御意見を頂戴したいと思います。

まず、阿部委員をお願いします。

【阿部委員】

皆さんこんにちは。よろしくお願いいたします。

第一回の委員会から、私なりにもときどき考えてみたりしたところではありますが、Uターンの推進は様々な施策がありますけれども、その中でも、たくさんの分野に希望があるというか、そうなったらいろんな事業、産業が助かるんじゃないのかなというような気がしました。前回、お隣の小松さんが仰ってたんですけども、若者はやっぱり一度都会に出たい。自分自身のことを思い返してもそうですし、そういった気持ちは応援したいというところはやっぱりあります。行って見て地元の良さとか郷土愛とか、また、私自身子育て中で

すけども、子供に聞いてみるとやっぱり地元で働きたいという子は多いような気はしています。そういった、子供たちの声に応えるためにも、Uターンをしたい、そういった方の希望に応えられるような取組ができていけばいいんじゃないのかなと。様々な分野で、私は福祉分野ですけども、それ以外の分野や子育て、子どもたちの人数の少なさを見てもそう思うところでは。

あと、所得格差に関してですけども、県全体で最低賃金が上がるので、なかなか県北とそれ以外の地域差を縮めるのってすごく難しいことなんじゃないのかなとは思っていますけど、働く子育て世代としては、盛岡などの地域で子育てをしている御家族に比べると、若干厳しいなど、やっていると思うところなので、追い付いていけたらというか、格差が縮まっていけばいいなあと、それだとみんな幸せだなと思います。以上です。

【坊良局長】

ありがとうございます。Uターンの推進、Uターンをしたいという希望に応えるような取組が必要なのではないかということと、あと所得格差、これは非常に厳しい状況ではないのかというお話をいただいたところでございます。

では、これは、鎌田所長。Uターンの方から。

【鎌田二戸地域振興センター所長】

Uターンにつきましてはこれまでも一生懸命取り組んできたところでもありますけども、一旦出してしまうと、情報提供しにくいといったところもあります。まずは帰省した時とか、成人式とか、そういったところの機会を捉えて情報提供してきましたし、それは継続していきます。大学生とかですね。高校を出て一旦進学して、その時点で帰ってくるっていう働きもあり、東京の大学というよりは、まず県内の大学に企業さんをまとめて連れて行って、大学の中での説明会に、取り組みたいなと思っております。なかなか一発で逆転する効果的な取組というのはできないので、委員の皆様からも御意見いただきながら、着実に、地道に取り組んでいければなと思っております。

所得格差は、これも永遠のテーマみたいなのところもありますので、そこは一次産業、二次産業、三次産業それぞれ所得向上、あるいは付加価値といったところに取り組んでいきますので、こちらも着実に取り組んで、できるだけ成果を挙げていくとしていきたいと思います。

【坊良局長】

私の方からも少し補足ですね。今鎌田所長から話があった、Uターンをしてもらうタイミングでということもあるんですけども、出ていく前にこの地域の魅力をいかに知ってもらっておくかということですね。したがって、中学生とか高校生の方々に、いわゆる企業の魅

力とかこの地域で暮らすことの魅力を知っていただくというところにも力を入れていく。当然、今進学率高くなっていますので、県外であったり、管外、盛岡とかに出ていくんですけども、2年後、4年後に就職を考えたときに、そのときに自分たちの生まれ育った魅力がもし心にあれば、やっぱり戻ってみようかなという気持ちになるようにしたいなと思っております。3年後、4年後に戻ってくるという仕掛けを、今回は強くしたいということです。移住定住という取組もあるんですけども、ポイントはUターンです。まさにこの地域から出ていった人を戻したいなという思いがあります。

もう一つ、所得格差は、これを縮めるためには、他の圏域よりも所得を伸ばす速度を早くしなければならないというわけでありまして、そのためには、トヨタ式の、いわゆる生産性を向上させる取組を地道に一社一社積み重ねてきておりますけれども、こういったようなところを積み重ねたいな、と。そうすれば、生産性が2割上がりました、3割上がりましたと実際取り組んでいる企業さんが実績をあげていますので、そういったところも、コーディネーターという話をしましたけれども、専門の、企業さんを回って企業さんの個別のニーズを把握するような方がおられますので、そういったようなことをやっていきたいと考えております。

少し長くなって申し訳ございません。それでは次に、小松委員をお願いします。

【小松委員】

こんにちは。小松製菓の小松と申します。

人口減少対策に対して最優先に取り組むこととし、今後の4年間に取組を強化する項目を重点項目とするということなんですけども、ターゲットはUターンで、Uターンで戻ってきて欲しいというターゲットが20代前半なのかなというふうにお聞きして思ったんですけども、まず戻ってくる年代はそれで合っているのか。どの年代の方が一番戻ってきそうかというリサーチをされたのかとか、どこにアプローチをかけて戻ってくる取組をするのかというところはちょっとまだ、何となく漠然としてるんじゃないかなと見て感じましたので、いろいろこういうことをするという施策はあるんですけど、もっと4年間でこのぐらい増やすという数値目標だとかパーセンテージだとかっていう目標があって、それに対して、どのぐらいの人数にアプローチをして何%戻ってくると、二戸地域の人口が何人増えるという数値目標はないと。ただただこうこういうことをしますで、あまり増えませんでした、ではやる意味があまりないのかなと感じたのと、ここにはないものが、その数値目標とかそのアプローチの細かい指標とかのほかにも、広告宣伝をするという、多く広く知ってもらってというところがないなと、見て思いました。

あと、DX・トヨタ式というところにおいては、我が社ではずっと取組をしておりまして、コンサルの先生が毎月来てやっていただいているんですけども、二戸の企業とか経営され

ているところで、トヨタ式に限らず、例えば、何かのシステムを入れることで業務を改善して、3人でやっていたところを1人でできるようにするとかという方法がたくさんあると思うんですね。で、そういうコンサルティングの方も市の方で順番に回っていく、みたいな仕組みがあれば、本当はそこまで人がいないけれども、やっぱりこう日本自体の人口が少ないので、やっぱり戻すって言っても、ないものを戻すっていうところなのかなとも感じているので、人を戻すプラス少ない人数で仕事を回すっていう両方やらないといけないのかなと感じました。

【坊良局長】

ありがとうございます。では、鎌田所長、お願いします。

【鎌田二戸地域振興センター所長】

最初に、Uターン、ターゲットとか、数値的な部分をしっかりしたらいいのではないかという話もありました。実はその部分、Uターンの数値に関しましては実は弱いところでありました。数値的な部分で把握しきれないこともあるんですけども、県庁の定住・雇用推進室で、Uターンとかで相談件数等の実数をまとめたところでは、県北地域に関しましては大体月20件ぐらい移住相談みたいなものが出てきてるという数値も出てきております。そういったところも数値把握しながら、今時点での数値のベースがちょっとわからないので、こういきますというふうなところは明確には申し上げられませんが、数値も意識しながら取り組んでいきたいと思っております。

そしてあとトヨタ式のところにつきましては、社数の方は少ないんですけども、今までトヨタの東日本さんの方で毎年1社ずつ、主に久慈地域の方で入ってもらったんですけども、こちらの範囲を広げて受けていただくという話も受けておりますので、そういったところも、呼び戻すというのとかこういったところ、合わせ技で、企業さんが存続できるような、あるいはコスト的な部分で改善に努めていきたいなと思っております。

【坊良局長】

Uターンの広告宣伝はですね、東京にふるさと回帰支援センターという、全国の都道府県のUターンに関しいろんな情報提供をする場所があって、そこに岩手県の方もいるんですけども、そういうようなところを使って、県北の各市町村で一緒になって、北いわて、久慈・二戸地域へ、どうぞUターンのことを考えてくださいという取組も新たな取組として盛り込みたいなと思っております。それが一つの「県北地域への」というメッセージになるのかなと考えております。

【小松委員】

I ターンも考えているんですか。

【坊良局長】

そうです、I ターンも含めてという形で対応したいと思います。

【小松委員】

JAL と久慈酒造さんで組んだ取組が今度されると思うんですけども、そういうので I ターンをするのかなと思っていました。

【坊良局長】

はい、わかりました。

ありがとうございました。では、続きまして、古舘英彦委員、お願いします。

【古舘英彦委員】

こんにちは、古舘です。よろしくをお願いします。

私は、御所野・縄文遺跡について、お話したいと思います。計画を見て、観光としての縄文遺跡というのが出ておりますが、観光面としてと、縄文遺跡の価値をどう認識してもらいか、その両面が本当はあると思っています。そういったところの狙いをはっきりさせて取り組むべきじゃないかなと思います。縄文 WEEK なんかも、振興局さんの御支援でやったわけですけども、内陸でもこの紅葉の時期、どこの市町村でも色んな事業が重なって、実際問題岡村先生の講演会なんかでも五十人弱ですから、もったいない話なんですよね。せっかくなのに、残念です。別の開催時期を考えていいのではないか。紅葉の時期がいいことはいいんだろうけども、今年はコロナの観光回復とかもあったかもしれない。7月の27、28、29、その辺の一周年ってということで、7月20日前後が、私は本当は良かったんじゃないかなと思っています。そこは、市町村と一緒にやる部分もあると思うので、3周年5周年とやると思うんですけども、一つの観光としたいのであれば、宣伝にもっと時間をかけて丁寧にやらないと。パンフに書いただけでは全然人集まらないですよね。そんなのあったのかというようなことを盛岡で聞いたりもしました。内容的には私は素晴らしいものがあったなあと思います。

縄文について理解してもらうために、今年は宮古の崎山貝塚の海の縄文と里山の御所野遺跡、この二つのことを取り上げました。日本で一番縄文遺跡があるのは岩手県なわけで、そういった県内にある縄文とどのように一緒にやっていくかということをやするのはやっぱり県であるし、御所野のあるこの県北振興局じゃないかなと思います。

それが一つで、もう一つは、所長さんも、10月30日御所野縄文レストランにお越しいた

だいて、私も35人ぐらいのモニターの一人として声をかけられていたんですけども、あれは素晴らしい事業だと思っています。地元の有志、業者、盛岡、岩手町、東京、会社の人たちと連携してやったわけですけども、これは、観光庁のモデル事業でプロジェクトを持っていて、いろんな事業の中の一つがこのレストランでした。この団体の名称が縄文ワンサードといい、要は3分の1という意味です。私も普段気づかなかったんですけども、皆さんにもお知らせしたいのは、3分の1はまず自分のために、3分の1は自然のために、残りの3分の1が未来の子どもたちのために、という考え方で、縄文の人たちの生活の仕方っていうのはこういう形で計画的というか、先を見通していたということです。今の私たちに通じるのは何かっていうと、結構あります。山菜とりとかきのご採りとか、採る時には、全部採りませんよね。自分たちが食べたり、あるいは近所におすそ分けする分とか、あるいは全部採っちゃ駄目だから、次のために残しておくんです。そういう精神というのは我々の中でやっぱりあるんだなと。やっぱり縄文の人たちはすばらしい考え方をって生活してたんだというワンサードという考え方。この考え方をいろんなところで、いろんな事業に取り入れられるんじゃないかなと思います。

今回の事業は、発酵食品とか縄文時代の主食、あとはその地元の食にこだわってやったわけですよ。そういったものの開発にも繋がるし、商品開発にもなるし、それが食材として、盛岡東京方面に行くことになれば、素晴らしいことじゃないかと。是非、このワンサードだけじゃないんですけど、民間で立ち上がったようなので、今後とも御支援いただければありがたいなと思っています。以上です。

【坊良局長】

こちらも、鎌田所長お願いします。

【鎌田二戸地域振興センター所長】

御所野の観光と、文化的な側面、両面を気を付けたらという御意見でしたが、表には、観光面が出てきてしまいますけども、できれば来年度取り組みたいと考えているのが、県内の小学校5年生6年生で研修旅行みたいなもの、ぜひ縄文の公園の方に来て、縄文の考え方、今言ったようなワンサードの考え方とか、自然との関わりとか、あるいはその縄文というのは実は今も生きているだとか、そういった文化的な側面をぜひお伝えできるような取組を進めたいなと考えています。表に出るのはどうしても観光的なものなんですけども、並行して文化的な側面も押し進めていきたいと思っています。

あと、開催時期については、これまでの経緯とか、一戸町さんの考え方がありますので、そこは気をつけていきたいと思っています。

県内の縄文の連携の件については、検討させてください。

縄文ワンサードさんとは、私も縄文レストランの方に行きましたけども、当初から協力、事業の概要等お聞きしておりました、まずそういった考え方というのはすごく素晴らしいと感じておりました。あと、今年度の取組を、今後どうしたらいいかというところを、時間をとって打合せしましょうということで今調整中ですので、そういったところをフォローして、形にしていきたいと思っております。

【山村副局長】

ちょっと補足させていただきます。資料の4の13枚目のスライドを見ていただきたいんですが、御所野の取組、観光面と文化面があるというので、文化面の取組として、この13のVIIの歴史文化のところ、これが岩手県全体の計画の方のスライドなんですけれども、このVII 歴史文化というところで、成果として世界遺産登録された、去年の計画で課題とすると三つの世界遺産を中心とした文化遺産のネットワークの構築連携とか、一応県庁の大きな役割として我々振興局が、地元の振興というか、交流の促進とか、産業をサポートしたりとか、観光をPRしたり、そういったところを重点的に我々としてはやっております、我々の取組として、県全体としては文化の面もとらえて、三つの世界遺産という切り口であったり、縄文という切り口であったり、そういう形で取組をしておりますし、これからもそういう、県庁内の話ですけども、役割果たしながら、連携しながら取り組んでいければと思いますし、この地域の一番の旬なテーマである御所野を盛り上げながら取り組んでいきたいと思っております。

【坊良局長】

ありがとうございます。続きまして、古舘裕樹委員をお願いします。

【古舘裕樹委員】

十文字チキンカンパニーの古舘です。よろしくをお願いします。

まず、私は再生可能エネルギーということで、この資料3-1と資料3-2、目を通したところの感想というか、思ったことをお話したいと思います。

まず、地域振興プラン策定の方向ということで、いろいろな具体的な施策が書かれてるんですが、その文言の中で「促進」とか「推進」、「支援」と書かれているのですが、すごくわかりにくいと思うので、もうちょっとダイレクトにわかんないもんかなというのがちょっと正直な印象でした。県の方だと直接できることっていうのは当然限られると思うんですが、この表現だと県の主体性を全く感じない。旗は振るけど、誰かやってよ、というのをすごい感じるなと私はとりました。そういうつもりでこの文章を作ったのではないのは当然だと思うんですが、表現の仕方をちょっと変えた方がいいのかなというのが第一印象です。

あと、一つの例を出したいなと思ったのは、県有施設内の再生可能エネルギーの導入ということで、多分今現状ある再生可能エネルギー、電気だと思うんですが、あるものを買ってくると、買ってきてそれを合同庁舎とか県の施設で使われるということだと思うんですが、そういったところにもちょっと主体性を発揮できないものかなっていう。電気を集めるところから、県がもっと踏み込んでいってもいいんじゃないかなというようなこと感じました。一つは、近くでは久慈地域エネルギーさんなんか非常に積極的にやられてるのと、あと東京都で、都庁電力プランということで、民間の電力、小売電気事業者を間に挟んで電気を購入します。その電気は、必ず都の施設で全部を切り替えます。これがそのまま岩手県でマネすればいいのかっていうと、やっぱり条件違いますので全くうまくいくとは思いませんが、こういったちょっとベンチマークになるような施策もあると思いますんで、もうちょっとこの主体性が見える具体的な対策をする、再生可能エネルギーを岩手県は一生懸命推進するんだよという、動きが見える施策を入れて欲しいなというのは、まず一番最初に思いました。

あともう一つですね、再生可能エネルギーを推進する上で我々も今ちょっと困ってるんですが、送電網が非常に脆弱です。電気を送りたいときも送れない状況なんですね。今、東北電力さんと電源接続案件一括検討プロセスということを広くやります。1年ぐらいかかるんですね。このプロセスをやっている最中は、電気をちょっと増やしたいんですけどと言っても検討すらしてもらえない。実際、我々のバイオマス発電所でも燃料に少々余裕が出たものですから、設備を改造して少し出力を上げれるかなという検討をしたんですが、電気が送れないということで、今ペンディングになっている状態です。それで、やはり再生可能エネルギー、どんどんいいものだからやっていこうと言うんだけど、足元がグラついているというかしっかりしてない状況で、旗だけ振ってもなかなか進んでいかないのかなというのは、今直接再生可能エネルギーを作ってる立場から言うと、そういう状況だということを御理解いただきたいなと思います。

全く違う分野なんですけど、先ほどの岩手県の所得の格差の話なんですけど、例えば、優秀な人に管理職にならないかということをお話なんですけど、彼らは家が兼業農家であったり、そういったことで、時間に縛られたくないので8時~17時の仕事でいいですと。当然、総務職になると収入も増えるわけですよ。そういった地域性というか、兼業農家が多いとか、農家でも小規模なところが多いとか、あとは、手を動かす現場で仕事をする人員が多いとか、そういった要素も含まれて、やはり盛岡であったり、県南に比べると所得が、低いのかなと私は感じています。ですので、一概に企業さんで改善が進んでないから所得が低い、会社の利益が低いということだけでもないような気がします。これは本当に身近なところで感じる一意見ですが、参考にしていただければと思います。私の方は以上です。

【坊良局長】

ありがとうございます。それでは、再生可能エネルギー関係は、高橋課長、お願いします。

【高橋企画推進課長】

まず一つ目の「促進」「推進」「支援」、ちょっとわかりにくいというお話でございました。促進についてはみんなで進めるみたいな感じですし、推進は県が、支援はその通りで他の方を支援するというような形で使い分けていたんですけれども、この辺は説明の工夫をしたいと考えてございます。県としても積極的に再エネは取り組んでいきたいと考えてございますので、連携しながら、推進していきたいと考えてございます。

あと県有施設の部分でございますけれども、これについては、他の県有施設ではないんですけれども、久慈と二戸の合同庁舎につきましては、今再エネ 100%の電気を購入しているというような状況でございます。さらに、久慈合庁の屋根に PPA という、事業者が太陽光パネルを設置して、合庁の屋根を借りて事業者が太陽光パネルを設置するというような取組ができないかどうかという部分を、県庁と協議をしているというような状況でございます。県有施設の中では特に、県北の合庁については再エネの取組を意識して取り組んでいるところでございます。

あと、再エネの送電線でございますけれども、様々な要望を国に働きかけております。使われていないところも活用するとか、同じ送電線の中でも余力のあるところに少し送電できる部分を追加するといった取組も少しずつ進んでいるんですけれども、やっぱり依然として弱いということです。この部分は継続して要望していきたいと考えてございます。以上です。

【坊良局長】

送電網の関係は、やっぱり大きな問題な課題だと。手続は、一括方式にしたから少しは短縮されたみたいなんですけれども、さらに今おっしゃったとおり、それでも1年も放っておかれるというようなことがありますので、相当強くこれは要望しておりますし、やはり国は国で、再生エネの、エネルギーの、原子力等いろいろある中で、再生エネは非常に早く取り組んでいかなければならないということですから、国も重視している部分で、それが具体的な動きになってくればいいなと思っておりますけれども、我々もそういう意味で、今課長が申しましたとおり、あらゆる機会を通じて、訴えていくということになっております。

それでは、二戸地区については、一応、一巡でございます。

続いて、久慈会場にお集まりの委員の方々からお話を伺って参りたいと思います。

まず、内野澤委員、お願いいたします。

【内野澤委員】

内野澤です。よろしくお願いします。

私からは、7月に行われた地域運営委員会議のときに、ホタテの大量斃死の発生要因の解明をお願いしたところ、職員の方からホタテ貝先進地である青森県産業技術センター水産総合研究所に足を運んでもらい、養殖管理方法について学んできたことを助言・指導していただき、本当にありがたく思っています。参考にして、養殖管理方法について生産者間でも意見交換や見直し、改善してきたいと思えます。また、継続して2年、3年と調査してもらうことにより、より効果的な管理方法を選定できるように取り組んでいきます。

担い手不足や漁業生産額の減少など、取り組む課題はありますが、少しずつでも改善できるように、御指導よろしくお願ひいたします。以上です。

【坊良局長】

ありがとうございます。

担い手不足の関係についてお話がありました。工藤水産部長お願いします。

【工藤水産部長】

水産部の工藤と申します。今お話にありましたホタテに関しては、来年度以降も継続して調査をしてみたいと思っております。

また、御指摘のありました担い手の関係なんですけれども、担い手の確保・育成に向けまして、いわて水産アカデミーでの新規就漁者の就漁機会も継続して提供していきたいと思っておりますし、漁業経営体の強化に向けまして、規模の拡大とか、経営能力の改善に向けて、勉強会の開催等支援をしてみたいと思っております。以上です。

【坊良局長】

ありがとうございます。続きまして、川代委員、お願ひをいたします。

【川代委員】

保健推進連絡協議会、川代といいます。よろしくお願いします。心の健康、体の健康の面で少しお話したいと思えます。

自殺者の数値というか、それは、令和2年度・3年度はかなり改善したというのは、本当に皆様の協力、保健師さん、地域の努力が継続された結果だと、それは喜ばしいんですが、男性が実際は多いと伺いました。特に40代の男性が、鬱が多いということについて、改めて何かアプローチの方法がないのかなと考えておりました。実は先日、保健推進委員の審議会盛岡大学の栄養学の教授、佐藤先生にお話をいただいたところだったんです。心の健康と

体の健康、もちろん栄養のことも含めて、それと、健康なことで時間が使える、時間が使えることで、就労の機会とか、様々な幸福度につながる可能性があるんですけども、やはり、基本的な健康的な問題が、これはおろそかにできないことだと。それを脇から支えてくださるのが、業者の皆様が、産業だとか、再生エネルギーだとか、そういうことの手組が後押ししてくださるものだと期待しております。

それで、出産、子育て、あと要介護、ライフステージで状況が見えるところにはアプローチがしやすいんですけども、経済的な不安を抱えているとか、働く世代で健康問題を抱えているとか、特に男性の方がどこかで何かしら寄り添うような場所が作りづらい現状が今あるのではないかと感じております。

先ほどUターンにポイントを置くと。県内外からのUターン、人口減少対策ですね。であれば、Uターンをしてくださる世代を育ててきている、働いている、今20代・30代・40代、ここが生き生きと生活できることがとても大事なポイントだと思います。

それから、たまたまお隣に保育園の方がいらっしゃいますので、自然に、要するに特化した新しい保育園づくり、そういったことも、何かしら可能性があるのではないかと考えております。あと、地域には公民館事業がございますので、これからは、より子育てもなんですけども、そういった男性が関わってくるような公民館事業、スポ少とかPTAを外した関係で関わっていくことも必要なかと思っております。以上です。ありがとうございます。

【坊良局長】

ただいまの発言は、いわゆる福祉の様々な分野での男性へのアプローチというようにお話だったのかなと思います。菊地保健福祉環境部長、コメントの方お願いいたします。

【菊地保健福祉環境部長】

ありがとうございました。確かに自殺の関係は、令和2年度や3年度にかけて、この辺少し増えてきておまして、やっぱり男性の働き盛り世代などということで御指摘の通りであります。経済的な問題とか、そういったところが理由なので、お亡くなりになっているというような状況があるということは認識しておまして、そういうところを、うちの方も「久慈モデル」ということで、自殺関係は取組を進めてまして、包括的に、関係機関とタッグを組みながら取組を進めている、ボランティアの団体とか、包括ケアセンターも含めて、保健推進委員さんも含めて、いろいろやっております。

うちの保健所で少し考えているのは、事業所関係のアプローチのところを少し、経営企画部が事業所訪問等していますので、そういうところと一緒に、自殺とか、あるいは健康づくり、そういう生活習慣病を予防するためにはこういったことに気を付けましょうとか、そういったところを、事業所の社長さんとか、店舗安全衛生をつかさどる方に直接話をして、

そういうのも皆様で進めてもらえるような取組を少し考えているところでございます。

なかなか自殺と健康づくりというところ、コロナ禍で現状としてなかなか取り組めてこなかった、ここ数年、なかなか力を入れてこれなかった部分も、プランの見直し等もありますので、そういうところを含めて、ほかの方の意見を聞きながら作りたいなと思います。

【坊良局長】

ありがとうございます。続きまして、高浜委員、お願いします。

【高浜委員】

初めまして、NPO 法人地球のしごと大學の高浜菜奈子と申します。今回初めて参加させていただきます。

全体的にだと思いうんですけれども、今、私ここの地域に移住してきて4年になるんですけれども、やはり肌身に感じて、子どもとか、本当に減っていると感じるんですね。私も移住してきて、私の後に移住してくれてくれる方も最近増えてきている中で、どうやってここで定住していくか、どうやって生活していくかって本当に考えています。そうなったときに、ここに挙げられている「人口減少」とか「所得格差」とか、本当に日本全国どこでも同じようにこの問題に直面しているじゃないですか。そのなかで私たちがこの地域で生きていくにはと考えたときに、やはり特色のあるものを増やさなければいけないとすごく感じています。

その具体的な例で申し上げますと、例えば、新年あけて移住してくれる方は、尾鷲とか長崎県とかと普代村とを比べて、私たちの普代村に移住してくれるということを決めてくれたんですね。そのような形で、本当に全国でどこに移住するか、Uターン・Iターン・Jターンすべてだと思いうんですけれども、それを含めて、どこに移住するかということを本当にみなさん考えて選んできてくれているので、地域おこし協力隊として募集する仕事に関しても、選んでいただける仕事というものにしなければ人が来ないと私は感じています。

二戸市さんとかは、大きなチキンカンパニーさんがあったりとか、大きな企業さんがあると思いうんですけれども、私が住んでいる普代村とかは、そのような大きな企業さんとかはないので、稼げる個人といいますか、この人が来たら一人で対外に対して、域内もそうなんですけれど、外貨を獲得できる、稼げる個人に移住してもらった必要があるなと感じています。

もう一つは、私たちがやっている森の幼稚園の活動なんですけれども、おそらく東北では唯一の日常型の保育園で、それは、振興局さんの御協力もあってできているのでとても感謝しているんですけれども、私たちも、選ばれる保育園でありたいと思ってやっています。私たちの保育園を目指して、仙台から移住の方とか、来年度は関東圏からの移住ということもあるんですけれども、このような形で、選んでもらう、選んでもらえる地域をつくっていかないと、沈んでいくというか、いけないなと本当に感じています。森の幼稚園は、例えば、移

住した園児で成功している、私が知っている限りだと5つの県で県を挙げて推進していき、野外で活動するということの意義もありますし、先ほど担い手不足という話もあったんですけれど、私たちはお子さんだったり、漁業やっている方のところだったりに行っているいろいろなことを体験させてもらいながら活動をしているんですけれども、教えるのではなくて、原風景として、そのような人がいるんだとか、そういうことを原風景、原体験として覚えているということはすごく大事なことだと思っていて、いろんなところにつながっている活動だと思っているので、選ばれる保育園、選ばれる教育、子育て世代に選んでもらえる地域を作っていくためには、公の機関だと公平性もあると思うんですけれども、特色のある、本当に戦っていくかたちをつくるのが必要なのではないかと思います。

私たちは移住者誘致をして保育園を運営していこうと考えているんですけれども、その中で課題になっているのが、「アウェイ育児」といって、核家族で移住してくるので、頼れる人が少なく、私は出身が八戸で、実家が八戸なのでよく通っているんですが、そういうふうに身寄りがなかったりすると、家族で移住してきても、旦那さんがいたとしても、不安があると思うので、ファミリーサポートだとか、公の支援が必要になってくるかなと思っています。以上です。ありがとうございます。

【坊良局長】

ありがとうございます。では、移住推進、企画課長をお願いします。

【高橋企画推進課長】

人口減少対策といたしまして、移住定住の推進を行っていくということは、次の計画の中でも非常に重要な取組の一つと考えております。多くの自治体が今、人口減少が続いているという中で、どこかに移住すると結局どこから人が動くだけというような状況があるのかなと思います。

移住定住、人口減少対策につきましては、まず、自然減を少なくするという取組が必要と考えますし、移住定住の促進ということで、東京に行っていた人が戻ってくる、あるいはこの地域の良さが伝わって来てくれるということが重要かなと考えてございます。いかに魅力を発信できるか、あるいは受け入れ態勢ですね。頼れる人が少ないとありましたが、そういった中で周りの住民のサポート、行政のサポート、ここに来てよかったなと思ってくれるような取組が、やはり重要になってくるのかなと思います。特に県北地域につきましては、人のよさという部分がPRの一つになるのかなとも思っておりますので、受け入れる側の意識の考え方も大切になってくると思いますし、そういうところを強化できるような取組も進めていきたいと考えてございます。

【坊良局長】

高浜委員から、どうやってこの地域を選んでもらうかというような魅力づけだったり、今課長が言ったどう見せていくかという部分もいろいろ関わってくるのかと思うんですけども、そういった部分をまた後ほど高浜委員と、あるいはこの管内に移住されてきた方の様々な意見を聞きながら、研究してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは続きまして、野田委員お願いします。

【野田委員】

私は洋野町の方にあります、社会福祉法人みちのく大寿会特別養護老人ホーム久慈平荘の野田です。よろしく願いいたします。私の方からは、質問が1点と要望が2点ということでお話をさせていただきます。

1点目は、資料の1-2の2ページの「活動中の元気なコミュニティ特選団体数」というのに56団体、県北地区にあるということで、これは市町村でいうと、どの辺が多いのかなと思ひまして、質問させていただきました。隔たりがあるのかなのかというのを知るために質問です。

要望の方の1点目ですが、昨日二戸で行われました、北いわて未来づくりネットワークの、いわゆる企業の採用の勉強会の方に参加させていただきました。私も9人ぐらいのテーブルに座ったのですが、二戸だったので、私以外はほとんど二戸の企業の皆さんで、久慈の方から来ている方は少なかったというのがありましたので、来年度久慈の方でもやっていただければと思います。企業の側も採用のブラッシュアップである、見せ方、あるいは接し方、自分たちの良さを再発見する場になっていたと、私は参加して思いましたので、ぜひ継続してやっていただきたいと思っております。

要望の2点目ですが、物価高騰対策の要望です。私たちの業界は介護保険という、社会保険の分野で働いており、3年に1回の介護保険の改定に行われなければ、物価高騰に対応する収入増は見込めません。収入のところでは私たちに価格決定権がないので、今一番大変な時期になっております。コロナの影響もありまして、コロナクラスターも施設関係で出ております。そういう点では収入も減っております、具体的にいいますと、私たちの施設もクラスターになり、今年度はトントン、いわゆる赤字になる可能性があるところにきております。そういう点では、先ほど高浜委員がおっしゃった「外貨を獲得する」という点では、介護保険の場合、50%が保険料、50%が税金という負担割合になっておりまして、50%の社会保険料は私たち労働者が払っていますし、税金の方も、50%のうちの25%は国から入ってくるということを考えますと、社会保険料の50%+国から入ってくる25%=75%が、この圏域の外から入ってくるという考え、外貨を獲得するという点では魅力的な業界ではないかなと思っております。とびぬけて収入が高くなる業界ではないのですが、この地域、この日本の

土台を支えるという大事な介護という業界が大変な状況になっていますので、そこに対して、物価高騰のところを、御支援いただきたいなと思っております。この部分は県北局の範囲から飛び出てしまうのですが、こういう意見もあるということで、述べさせていただきます。以上です。

【坊良局長】

それでは、データ分かりますか。久慈の方で回答できますか。

【下山理事】

はい、元気な特選団体の方でございますが、56 団体のうち、久慈市が 15 団体、それから多いのが、一戸町が 14 団体、それから二戸市 8 団体、洋野町 7 団体ですね。あとは 4～2 団体という状況でございます。

【坊良局長】

ありがとうございます。それでは、北いわて未来づくりの開催地のこと、どうぞ。

【鎌田二戸地域振興センター所長】

採用力向上のセミナーに、御参加いただきましてどうもありがとうございました。初めて今回二戸で開催しました。久慈の方から参加しにくかったというところもあったかと思えますので、そこは企業さんとか、あとは久慈の本局とも相談しながらですね、開催方法について、できるだけ両地域から参加できるような形で工夫していきたいと思っておりますので、また周知する際には、御協力いただければと思います。

【坊良局長】

次はいわゆる介護業界、社会福祉業界の物価高騰対策、菊地保健福祉環境部長お願いします。

【菊地保健福祉環境部長】

県北広域振興局独自では支援策を独自に講じることはないのですが、県の方では県議会等で、今年度の物価高騰、あるいはエネルギー関係の原油価格の高騰対策として、県民や事業者の方々にどのような支援ができるのかというところを、県として検討しているところと聞いておりますので、今野田委員からお話があった中身につきましても、本庁の方にお伝えしながら支援策を検討させていただきたいと思っております。

また、介護が魅力的な業界であるとか、あるいは収入は高くはないけれども日本の介護の

土台を支えるというところで期待しておりますし、この地域、高齢化率が高くて、健康寿命を延ばして、本当は介護がいらないような形で生活できるようにしていきたいとは思っているんですけども、高齢化率が高い地域で地域資源が限られている中で取り組める地域ではないかと思っておりましたので、野田委員からあった御意見も、ありがたく頂戴しながら、この地域の医療介護とか、高齢化社会対策に生かしていきたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたします。

【坊良局長】

それでは続きまして、藤織委員お願いいたします。

【藤織委員】

プロダクション未知カンパニーの藤織と申します。8月から久慈市の移住コーディネーターという仕事もさせていただいております。私の方から3点伺いたいことと要望と、お話をさせていただきたいと思えます。

まず、地域おこし協力隊の定住に向けての取組なんですけれども、おそらくコロナ禍で行われなかった交流会だとか、今年からまた再開してやっていただいていると思うんですけども、そのほかに地域おこし協力隊の方が任期終了後も残れるようにの取組ということで、何かやることとか、やられていることがあればお伺いしたいと思えます。

2点目なんですけれども、防災についてお伺いしたいんですけれども、私先日、久慈市で行われた防災士の講習を受けてまいりまして、まだ試験結果は出ていないので何とも言えないんですけれども、それで、防災についてもいろいろ個人的にも考えるようになっておりまして、私が川の近くに住んでいるので、洪水とか津波警報とか来た際には、もう避難すること、覚悟はしているんですけれども、河川敷を見ていると、結構藪になっているところが、すごい範囲が広くて、これは多分洪水になったり津波が来たら危ないんだろうなという感じがしているんですね。藪になっていない部分もあるんですけれども、そこは畑になっているんですね。あれはどういう権利でやっているのか分からないんですけども、畑をやっている方がいるんです。藪になっているよりは畑に整備してくれた方がちょっと安全だな、なんて気もしてしまうんですけれども、畑だけだったらいいんですけれども、結構小屋が建っていたりとかいうところがあって、ちょっと小屋はまた危険だなと思うところでもあって、その辺の権利関係は市なのか、県なのか、国なのかとか、もしかして土地を買っているのかとか、私も分からないところでもあるんですけれども、その辺を、何か対策だったりとか、把握しているのかだったりというところを伺いたいです。

あと3点目なんですけれども、漁業関係のお話で、地域おこし協力隊の話でもあるんですけども、漁業関係に今地域おこし協力隊で就いている方が一人いらっしゃいまして、今後も

もしかしたら久慈市で漁業をやりたいという方が移住して来てくれればいいなと思っているんですけども、ただ、聞くところによると、南の方とかだと、新しく漁業に就く方は船の購入費の助成とか結構あるみたいな話を聞くんですけど、そこも市町村単位でがんばらないといけない部分でもあるかもしれないですけども、久慈市はその辺があまりないということで、結構苦しんでいる話を伺いました。いわて水産アカデミーとかにもし行ったら、ほかの、外部から移住してきて、じゃあ岩手で漁業をやろうかなといったときに、その感じだと南にみんな行っちゃうんじゃないかなという感じが私の中でするんですけども、その辺、県の方で何か考えていることがあればお伺いしたいところです。以上です。

【坊良局長】

それでは、地域おこし協力隊の任期終了後の定住に向けた取組ということで、交流会以外何かやっているのかということでもあります。高橋企画課長お願いします。

【高橋企画推進課長】

地域おこし協力隊として、市町村で3年間暮らして、その後そこに残っていただくことが大切だと考えています。振興局としては、地域おこし協力隊としてきているときには、専門家の派遣をしまして、地域おこし協力隊としての悩み等を解消するような事業をしてございます。さらに、これまでは専門家の派遣を受けた方がその後事例発表を行って、それと併せて地域おこし協力隊の現役の交流を深めていたという事業をしてございました。今後は、そこにOB・OGの方も参加するような形で、OB・OG同士の交流会、あるいは現役の協力隊との交流会といったものを作っていききたいと考えてございます。また、今年は山ぶどう栽培に取り組んでいるOBの方のところには現役の協力隊が伺い、活動体験をしながら交流をしたんですけども、そういった交流もやっていききたいと思います。いずれ、いろんな悩みを分かち合うとか、人のつながりを大切にするような取組を今後続けていききたいと考えています。

【坊良局長】

もう一つは、来年度の取組のところでも説明しておりましたけれども、総務省の補助事業があります。何かといいますと、「特定地域づくり事業協同組合」という、いわゆる協同組合を設立しようという制度です。1つの事業者では1年間業務はつくれない、いわゆる閑繁期があるわけなんですけれども、いろんな業界の人たちが協同組合を作って、いろんな仕事ができる人を忙しいときに忙しい事業体に派遣し、そして1年間仕事を回していきましようというような制度です。そこには、市町村と国から、人件費の補助が1/2つきます。その協同組合をつくるのが、ちょっとハードルが高いわけなんですけれども、具体的には葛巻町ですでに設立していたり、県下ではもう一か所ぐらい具体的に検討しているところもあり

ます。そういったように、仕事をつくるような取組・制度について、協同組合の設立に向けての制度の勉強会だったり、あるいはそういう協同組合設立に関心のある業界の方々との勉強会もやりたいと思っていました。

2つ目の河川敷の関係であります。和村土木部長お願いします。

【和村土木部長】

河川区域内の畑ですとか、あとは小屋に関しましては、原則論からいきますと、河川区域内はそういう耕作ができなくなっております。今我々がやっておりますのは、そういうのを見たときに、その方に伝えてお願いしたり、分からない場合は近辺に掲示板を立てて、連絡がほしいといった対応をしています。でも、なかなかその方から返事が無いのも多いのですけれども、いずれ県としましては河川区域内の畑ですとか、小屋、これは不法占有地と考えておりますので、撤去する方向で考えております。

あと、川の中に藪とかもあるんですが、我々もできるだけ、河道掘削といいまして、もちろん撤去しておるのですが、とっちらすぐ、雨が降れば変わってしまうといった状況なものですから、なかなか取りきれれておりませんが、できるだけ住民の安全のために、土砂をとっていきたいと思います。以上です。

【坊良局長】

漁業者への漁業参入への支援・助成は、ということで、工藤水産部長お願いいたします。

【工藤水産部長】

漁業者への支援、新規就漁者への支援の関係なんですけれども、南の方の市町村さんでは、確かに就漁奨励金、あと住居の確保に係る支援が市町村単位で行われているところがあるという。こういうような、各市町村さんごとの支援状況というのは、各市町村さんとも情報共有を図っております、できれば市町村さんでもやっていただける、参考にさせていただくということを進めてございます。そのほかの国の事業を活用しまして、新規就漁者に対する支援事業等もございますので、そういうものも御紹介しているところですし、あと、船の関係ですと、資金の利子補給という形で、県としても支援をしているものがありますので、それを活用していただきたいと思っております。以上です。

【坊良局長】

ありがとうございます。

それでは最後になりました、谷地委員お願いいたします。

【谷地委員】

谷地林業の谷地です。どうぞよろしく申し上げます。

いくつかあるかと思えます。まず質問なんですが、福祉関係の分野です。例えばいろんなところと連携をして就業活動、就労の方に向かって進むと思うんですけども、例えば林業関係とか、一次産業の関係で、進めているところが、もし情報があれば、教えていただきたいと思っています。どんな課題があって、それをクリアして進めていくにはどうすればいいかなというのを求めてですね、わかる程度で結構です。教えていただきたいなと思っていました。

次は、先ほど高浜委員から出てましたけれども、地域が選ばれていかなければならないとか、仕事についてもそうだと思いますということでしたけれども、前回も、例えば移住だけでなく、人口減で仕事をしていくには、いろんな方々に来てもらわなければならない。来てもらって仕事をしなければならぬ。そうすれば、今私のところでやっているのは、外国人研修生が来ていますけれども、彼らについても、会社はそうなんです、もう一つはこの地域、例えば久慈市なら久慈市が、研修生の皆さんにとって要は住みやすい場所なのかと。暮らしていくのに不便なところがすぐ解決できる地域なのかということ、多分、いろんな市町村にいますからね、彼らの仲間は。そのネットワークはすごいものです。その中で選ばれていくというもので、いくら会社で言っても、「あの地域はちょっと積極的に支援がないので嫌だな」と。ならば当然ながらネットワークはつながっています。なので、ぜひともそういった部分も含めて、彼らは長くて5年とか10年というところだったんですけども、やっぱり仕事をきちとつなげていくには必要な人材だし、これから戦略的に地域の人材を確保していくためには必要な部分だと思います。ぜひともそういったところも、市町村と連携しながら取り扱っていかなければいけないのかなと思います。ぜひともお願いしたいと思います。

あと、林業の方ですけども、もう一つ、北いわて木炭産業振興協議会の、私、事務局をやっております、この中で、木炭の輸出を含めて、木炭の輸出をきっかけとして、この地域のいろんなものを海外の方々に知ってもらって、海外の方から買いにこっちに来てもらうというのを一つのきっかけとして作り出していきたいなということで進めてました。これは県の協力もいただきながら進めています。

それで、これもお願いになります。岩手県の政策の中で、この木炭輸出というところが、まだまだ、県北振興局内では出ていますけれども、岩手県全体の政策の中では出てきていないところ。ぜひとも木炭を輸出しているんだというのを、県の政策の中に一つ盛り込んでいただきたいと思えますし、そして、その取組を含めて国の方にお知らせをしていただければありがたいなと思います。私たちは民間でやっていますけれども、進めていくときに、県の方針にこれが載っていないので、なかなかそれに対して事業に補助であるとか、そういったものが出ていきづらいですというのは言われました。直接、国の方にもお話をさせてい

ただいたときです。今は、県北振興局から補助金いただきながら進めています。あと今後は、県の流通の関係の方々と海外の方の大使館へ行って、岩手の食材をおいしく食べていただくのに木炭を利用していただくということも、進めていただいております。ぜひともその中でも、海外に持ち出していくのに、それに協力していただく機関がなかなかそれを知らないとできていけないという、そういう現状もございますので、ぜひともそんなところも含めてですね。多分、これは私たち木炭だけのものだけではなくて、様々な部分で、国で輸出をしていきたいというところがございますので、ぜひともそのような部分は御協力いただきながらやっていただきたいなと思います。

そのほか、地域で乗り越えつつっていく意味で、それぞれ個々の企業がやっぱり元気が出ていかなければならないし、人口減少の問題はかなり大きなものです。どんな街にしてどんな地域をつくっていくかということを含めて、個々の問題ではなくて、絵を描いて、この地域にどんな人材が必要で、どんな産業を興して、どんな人を呼び込むかということ、選択をして、自分たちも選択をしていかなければならないと思っています。そんなところが入って、振興プランの策定に、ぜひとも県北地域が発展していくような政策を載せていただければありがたいなと思います。よろしくお願いします。

【坊良局長】

今の冒頭で少し聞きづらい部分があったのですが、おそらく人材確保的なお話と、いかに地域に選ばれるような取組を進めていくかということだと思います。

この部分については、下山理事いかがでしょうか。

【下山理事】

最後おっしゃった人口減少につきまして、個々の個別の分野の政策というのもそうですが、こういった大きなグランドデザインもきちっと出していくのも大変重要だと思っています。先ほども、この地域振興プラン策定に当たりまして、資料3-1ということで御説明をさせていただきましたが、こういった人口減少等というものについて、やっぱり地域にあるもの、埋もれているもの、我々が見過ごしがちだとか、また完全に気づいていないもの、そういったものをきちんと生かして、進んでいくことが一番近いのかなと思っています。この地域、例えばそこにあまちゃんのポスターが貼ってございますが、放映から10周年を迎えるわけですが、我々がここに住んでいながら、全然価値をないものだと思っていたものが、こういった、大変全国で反響を呼んだというようなこともございますので、なかなかまたこういったものを探し出すのは大変ではありますが、そういったもの、資源はあるのだと思います。

また、最近では、再生可能エネルギー、久慈市では洋上風力というものも進んでおりますし、

脱炭素先行地域ということもございます。そういった新しいものも含めて、地域にあるものをまず生かせるもの、何があるか、何を生かすかということをごきちんを見据えた上で、そういったものを生かして取組を進めてまいりたいと思います。

【坊良局長】

木炭の関係で、及川部長、お願いします。

【及川林務部長】

まず、木炭についてでございます。輸出に取り組んでいただいております。一昨年あたりから実際に取り組んでいただいております。ちょっと条件が厳しい中でもまだ継続して、来年に向けてということで話を聞いております。農林水産物全般についても、岩手県も輸出について、実際に取り組んでおります。国を挙げて取り組んでいるわけですが、どうしても食材が中心になって、せっかく木炭も動いているわけですので、ことあるごとに、農林水産物の輸出に関しては、木炭も動いていますよということを出していく必要があるのかなと思ってございます。そういった中で、様々な一次産業の食材とともに木炭、あるいは商工の商品とともに木炭というものを組み入れて、表に出していく必要があると考えてございます。これは県庁の担当課と併せて、もうちょっと前面に出していいんじゃないのかなというところで、一緒に取り組んでいきたいと思ってございます。

あと、農福連携の関係のお話がありましたので、ついでにコメントさせていただきたいと思っております。林業農業分野でそういった事例があるのかというお話がございました。林業については、残念ながら農業ほど進んではおりませんが、試行的に盛岡の方で取り組んでいる事例はありますけれども、詳細については詳しくは存じ上げてはおりませんが、おそらく、山の現場作業ではなかろうかと思っております。やはり、どうしても活動に制約がありますので、安全な仕事というところで取り組んでいるということですが、詳細については、申し訳ございません。以上になります。

【坊良局長】

ありがとうございました。みなさまから一通り御発言をいただきました。

終了時間に迫っておりますけれども、それぞれの発言の中で話し切らなかったところであるとか、もう少し意見を述べたいといったことがあれば、ここで発言をいただければと思います。

発言のある方は挙手でお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

久慈地域はありますか。

【下山理事】

どなたか、よろしゅうございますか。

【坊良局長】

二戸地区、皆さんはいかがでしょう。よろしいでしょうか

はい、ありがとうございます。

本日は大変貴重な御意見等をいただきました。ありがとうございました。いただいた意見につきましては、再度我々の方で整理いたしまして、今後の施策推進の参考にさせていただきますと思います。

また、この地域振興プランと政策推進プランにつきましては、パブリックコメントの募集ということで、12月14日まで実施しております。机上に配布しております資料5に記載のとおりということで、県のホームページ、行政情報センター等でご覧いただけますので、もし御意見等があれば、お送りいただければと思います。

今後とも様々な御提言等いただきますようお願いいたします。今日はありがとうございました。

それでは進行を事務局にお返しいたします。

4 その他

【下山理事】

最後に、次第の4、その他でございますが、なんでも結構でございます。何かございましたら、委員の皆様、よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。

次回の開催につきましては、来年度を予定してございます。なお、御出席いただいた委員の皆様には、後日、お礼の品をお送りさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

それでは、本日は長時間にわたり、ありがとうございました。